



## CHANG子ども地球大学 ・川口市と蕨市からの委託で講義・

外国とSDGsを伝えるCHANG子ども地球大学。昨年末から川口市主催の「国際理解講座」と、蕨市の「冬の親子講座」でお話ししてきました。

12月10日(土) 安行東公民館

川口市・国際理解講座

・タイの子供とSDGs・

川口市の講座の一回目はタイ。場所、国旗、気温、時差などの概要を学習。そしてタイは仏教の国というお話をしました。

私「まず行ってほしいのはお寺です」金色で色とりどりの宝石を散りばめたようなお寺、ヨーロッパのお城のようなきれいなお寺の写真に女の子は「行ってみたいな」とうっとり。

私「タイの電車で優先されるのは？」女の子「お年寄り？」

私「そうです。お年寄りとかガをしてる人、妊娠してる人、これは日本と同じ。他には？タイはお寺の国・」女子「お坊さん！」

私「タイではお坊さんへの敬いがとて

も強いんです。そして一生に一回、男の人はお坊さんなるんですよ」男子「男はお坊さんになるって・・・」



僧侶が優先されるタイの電車

SDGsは「安全な水とトイレを世界中に」。世界ではトイレのない家、水道がなく水汲みのために学校に行けない子ども、そして汚れた水が原因で命を落としてしまう子どもたくさんいます。日本の子供ができることとして、水を大切にすることを学びました。

12月24日(土) 川口市・インターナショナルセンター

川口市・国際理解講座

・ラオスの子供とSDGs・

ラオスの概要を説明してからクイズ。

私「東南アジアの他に国にあってラオ

スにないものは？地図をよく見て」男子「地図・・・あつ、海？」

私「そうです。みんな海に行ったこと見せたら『どうやって作ったの？』って聞かれましたよ」

私「ラオスのお祭りでは大人も子供も水を掛け合って大騒ぎする“水かけ祭り”があります。元々は水で清める仏教の儀式だったんですがね」

一同「楽しそう！やりたい！」



ラオスの水かけ祭り

この日は三人だけと少ない人数でしたが、中国籍の子がとにかく元気面白かったです。「ラオスの言葉しゃべってください！」「何でそんなに詳しいんですか？」「研究家なんですか？」「大学では何を勉強しましたか？」と盛り上げてくれました。

SDGsは「健康と福祉」。小学生でもできることとして、歯磨き、スマホやテレビの見すぎに気を付けること

福祉とは「困ってる人を助けること」  
などを勉強しました。



元気のいい男の子ばかり

1月7日(土) 芝公民館

川口市・国際理解講座

ーカンボジアの子供とSDGsー

カンボジアは日本の半分くらいの大きさ。ちなみに世界でいちばん大きいのはロシア、そしてカナダ、アメリカです。人口は1,600万人で世界で70位、日本は1億2千万人で世界10位。世界では中国、インド、アメリカの順となります。

私「これはカンボジアの小学一年生の時間割です。日本と何が違う？」

女子「国語ばかり！体育が少ない」

私「子供の時に貧しくて学校に行けなかった大人が多いので、自分の子供に字を教えられないんです。だから小学生でも字の読み書きができない子が多いのでたくさん国語を勉強するんです。」

それと木曜日はずっと補習をします。苦手な科目をしっかりと勉強できる時間がたっぷりあるんです」

女子「補習いいな」

SDGsは「気候変動」。地球が暑くなって、動物が絶滅、農作物が取れず、ウイルスが増え、洪水や台風も増えてます。この原因は電気の使い過ぎ。みんなで節約についてを考えました。



国語が多い時間割

1月14日(土) 旭町公民館

蕨市・冬の親子講座

ーカンボジアの子供とSDGsー

蕨市では親子講座でお話ししてきました。カンボジアの概要を説明してから生活の違いのお話し。

私「このトイレ、日本と何が違う？」

男子「お風呂がある」

私「これお風呂じゃないんです。何に使うと思う？」

男子「トイレを洗う」

私「違うんです。出したものをこの水で自分で流すんです」

全員「えー！」

私「トイレットペーパーも普通は付いてないので持って行ってくださいね」



自分で流すトイレ

私「カンボジアの人って日本人を見るとあだ名で呼ぶんですよ。家にある調味料の名前です」

男子「醤油？塩？砂糖・・・」

私「醤油さん！って面白い。答えはアジノモト！昔から日本の味の素が人気でコマーシャルもやってるから、日本人はアジノモト！と呼ばれます」これには親子で笑ってました。

そしてこの日いちばんのお楽しみ。

カンボジアの子供に渡すアクセサリーを作りました。自分の分とカンボジアの子供の分、二つを作って写真撮影。親子で楽しそうです。



親子で楽しく参加



アクセサリーをプレゼント

公民館が集計した感想では「クイズがとても楽しかった」「親子で参加してよかった」「新しい世界が見えた」など、どれも嬉しい感想ばかり。来年の親子講座での講師依頼もいただき、今から楽しみです。